

「秋田市エイジフレンドリーシティ行動計画ー市民中心の行動計画ー」進捗状況（平成26年11月末現在）

秋田市エイジフレンドリーシティ行動計画では、エイジフレンドリーシティの実現に資する、市民が主体で、かつ、実行可能な取組について、4つの市民中心の行動計画を決定した。計画実施は、秋田市エイジフレンドリーシティ行動計画作業部会の参加者を中心に結成された、エイジフレンドリーあきた市民の会が中心となり実施されている。

○ 計画ごとの評実施状況および評価

No	行動計画名	基本方針とのリンク	期待される課題解決	イメージ	事業展開の留意点	平成25年度、26年度の実施状況		進捗状況の説明と評価
1	お店のうらがわが見える！ 1日店長さん	基本方針1 基本方針4 基本方針6 基本方針7	○年代を超えた魅力的な商店街づくりで、商店街と地域を活性化 ○お店、1日店長、お客さんとのコミュニケーションづくり ○市民（高齢者）による自己実現の場	通町・大町商店街のお店の協力を得て、市民が1日店長となる。1日店長は、高齢者限定にせず、年齢を問わず体験できる。これが「友達や孫が1日店長をやっているから、私も見に出ていこうかな。」と高齢者が外出するきっかけも生み出す。また1日店長は、新たな視点で商品開発等にも関わる。オリジナル商品の企画開発に関わることで、地域、商店街、街への愛着が生まれる。	○商店振興組合、商店主から理解と協力をきちんと得る。 ○活動を推進するための組織をつくり、代表者を決める。 ○通町、大町の人々の意見を聞き、取り入れる。 ○情報発信はメディアを活用し、できるだけ多くの人々へ周知する。 ○一過性の事業にしないよう、無理はしない。 ○通町の「通の市」と連動し、相乗効果が出るようにする。	25年度	無	具体的に取り組んでおらず、今後の予定も未定である。エイジフレンドリーあきた市民の会では、街のコンシェルジェを実施したり商店街主催のイベントへ参加するなど、計画策定時からの商店街とのつながりは継続されている。また、他の商店街との新たな連携も生まれており、まずは会と市内商店街との関係づくりを重視しているところである。 本計画実現には、商店街側の理解や協力が必須のほか、主催側にも相当な準備と体制づくりが必要なことから、実施の可能性については十分な検討が必要と考える。
						26年度	無	
2	街のコンシェルジェ	基本方針1 基本方針4 基本方針6 基本方針7	○高齢者が外出し、人と人がつながるきっかけづくり ○市民が街に興味を持つきっかけづくり ○人に会いにくる魅力的な商店街づくり	街のコンシェルジェを育成する。例えば、食、歴史、神社などテーマ毎のグループを作り、持ち回りで街歩きツアーを実施する。様々な年代の人がコンシェルジェとなり、100人の育成を目指す。さらに学びの場、交流目的のサロンを開いたり、商店街検定の実施、コンシェルジェ認定証の交付なども行う。 商店街を核に様々な年代や分野の人が交流することで、街へ愛着を持ち、新たな付加価値を生み出していくことができる。	○テーマ毎にコンシェルジェを養成し、一人ひとりの負担を軽減する。 ○老人クラブや商店街、民生委員、町内会、企業などからの協力が不可欠である。 ○続けることで評価を高める必要がある。	25年度	【実施回数】4回 【内容】 ・大店とまちづくり（街歩き：金子家・高砂堂、平成25年9月28日） ・神社めぐり（街歩き：大町神明社・星辻神社・招福稲荷神社、平成25年10月26日） ・竿燈まつりにみるまちづくり（街歩き：東海林太郎音楽館・大鵬ギャラリー、平成25年11月28日） ・秋田ノーザンハピネッツ（街歩き：佐野薬局、平成26年9月28日）	行動計画では、街のコンシェルジェの育成、街歩きツアーのイメージだったが、現在は各専門家に講話・街歩き案内を依頼しながら、地域の魅力の発見、高齢者をはじめとする市民の交流の場として事業実施されている。 おせっかいカフェについては、単独で商店街イベントや市主催セミナー・フォーラムでも実施されており、新たな展開をみせている。地縁などのしがらみがないカフェのため、「次はどこでやるの?」「定期的に開いているの?」などと高齢者から聞かれることも多く、市民の会では、おせっかいカフェを実施する意義や、やりがい強く感じている。 会では今後、形態を変える（研修との組み合わせ等）、自主事業にするなど、発展させ展開したいと考えている事業である。その場で利用できる人数は限られ地味な活動ではあるが、高齢者の居場所づくりとしての意義は大きい。市としても、会から提案があった保健所など市関係機関との連携、共同開催等について検討していく。
						26年度	【実施回数】4回 【内容】 ・新屋歴史散歩～桜並木カフェ～（平成26年4月30日） ・土崎港まち散歩～曳山カフェ～（平成26年6月18日） ・雄和まち歩き～はいくの街カフェ～（平成26年8月27日） ・通町ぐるっと散歩～外町きつねカフェ～（平成26年9月28日）	

No	行動計画名	基本方針とのリンク	期待される課題解決	イメージ	事業展開の留意点	平成25年度、26年度の実施状況		進捗状況の説明と評価
3	イベント実行委員会の発足	基本方針4 基本方針5 基本方針6 基本方針7	○多くの市民にエイジフレンドリーシティの情報を発信できる。 ○高齢者が活躍する場ができ、笑顔で元気な高齢者が増える。 ○イベントに関わることで年代を超えた交流ができる。	○エイジフレンドリーAKBの発足 若者の目標になるような尊敬できる高齢者48人を、リレー式に情報発信、市政番組や市広報誌「広報あきた」などで紹介する。 ○エイジフレンドリーにぎわい音頭や漫談 地域別に特色あるものをつくり、みんなが覚えやすい振付で筋力アップと介護予防し健康づくり、漫談で笑って健康になるキャンペーンを展開、宣伝隊（キャラバン隊）になって各地域を訪問する。 ○自慢大会 長年続けていることや、何かに役立てることができるものの自慢大会を実施する。	○舞台は大がかりに行う。 ○インターネット発信など、情報媒体を工夫する。	25年度	無	行動計画では、イベント実行委員会の発足、エイジフレンドリー発掘委員会の発足を具体的な取組として挙げているが、会員全員で各事業のアイデアをだしながら実施しているため、委員会自体の発足は行っていない。しかし、イベントの実施、エイジフレンドリーの発掘の両方が「思いやりコンテスト」と「AKB&ASJ」の実施で達成されているものとする。 思いやりコンテストは2年連続で開催されたが、人集めの難しさ、準備の負担の大きさ、人手不足など、いくつかの課題が浮き彫りとなっている。実施について、見直しの必要性がある一方で、会としては、内容を変えながらも継続してやりたい意欲を持っている事業である。まずは、自分たちの力でできる範囲内で着実に実施するため、募集内容等の見直しを行い、目的にあった事業実施が必要であるとする。また、今後のあり方については、市も交えての検討が必要と思われる。 今年度の新規事業であったAKB/ASJは、来年度以降も継続される予定だが、紹介の仕方、活躍してもらう場づくりなどについて、工夫の余地があることを会で認識しており、次年度の取組を注視する。
						26年度	・AKB(あきたのかわいいばあちゃん)、ASJ(あきたのすてきなじいちゃん)募集発掘(認定者AKB7名、ASJ7名) 【内容】 市民にとって「あの人のようになりたい」と思える生き方をしている高齢者を、自薦・他薦で募集し、エイジフレンドリーあきた市民の会で認定。様々な機会を利用して広く紹介しながら、市民(特に若い方)のロールモデルとなってもらうもの。平成26年10月12日、仲小路商店街でのイベントとして開催されたファッションショーや、10月26日の第24回秋田市男女共生フォーラムのトークイベント、ラジオ番組などに出演参加。	
4	エイジフレンドリー発掘委員会の発足	基本方針5 基本方針7 基本方針8	○多くの市民にエイジフレンドリーシティの情報を発信できる。 ○自分にとって具体的な行動や考え方の模範となる人物を紹介することで意識の共有が図られる。 ○年代を超えた情報発信で交流の場が広がる。	街なかの「これってエイジフレンドリーだね」を発掘し、情報発信していく。例えば、高齢者にやさしい店、高齢者にやさしいもの(高齢者に限らず、みんなにやさしいという視点も入れる)等を見つけて、情報発信する。(参考:アイルランドのエイジフレンドリーレストランガイド) ほかに、「思いやりコンテスト」「小中学生による作文募集」「年齢制限をしない企業の紹介」「紹介したい地域の宝の人」などで、エイジフレンドリーを発掘し情報発信していく。	○紹介するときは、お店などの賛同を得やすいように、きちんとメリットを伝えて紹介する。 ○多様な情報媒体を活用することであらゆる世代に情報発信する。(市の広報媒体のほか、facebook(フェイスブック)、SNS(ソーシャルネットワークサービス)なども上手に活用しよう)	25年度	・思いやりコンテストの実施 【内容】 「エイジフレンドリーな精神の普及」と「高齢者に対する思いやりの心を育む」ことを目的に絵画、標語、作文、ポスターを市内の児童・生徒から募集し、審査員による審査を行った。 ・応募期間 平成25年7月～8月 ・応募数 752点 ・表彰式 平成25年11月10日(日) 秋田拠点センターアルヴェ	
						26年度	・思いやりコンテストの実施 【内容】 「エイジフレンドリーな精神の普及」と「高齢者に対する思いやりの心を育む」ことを目的に絵画、標語、作文、ポスターを市内の児童・生徒から募集し、審査員による審査を行った。 ・応募期間 平成26年6月～7月 ・応募数 710点 ・表彰式 平成26年9月20日(土) 秋田拠点センターアルヴェ	

○ 総括

4本の市民中心の行動計画は、一部を除き、エイジフレンドリーあきた市民の会によって概ね順調に進められている。特に、AKB&ASJは、複数の新聞での報道やラジオの出演など注目度も高く、市民による活動を通してのエイジフレンドリーシティの普及浸透に効果・PRがあった。

今後は、会員を増やすなど、新たにエイジフレンドリー活動に参加する市民をどのように増やしていくかが大きな課題と考える。

エイジフレンドリーあきた市民の会については、会長はじめ各会員が多忙であるため、活動にも様々な制約(定例会の日程が合わないなど)があるが、少数ながら非常に熱心かつ積極的であり、年齢や性別を超えてのチームワークのもと、意欲的に活動を展開しており、会の活動そのものがエイジフレンドリーと言える。

今後も引き続き、会員数の拡大や自主事業実施など、会の方向性に関わる課題、改善点について、会の自立性を尊重しながら市として必要な支援を行い、市民協働によるエイジフレンドリーシティを推進していくものである。